

留学交流による大学国際化のあり方について

大河原 尚・前田 理佳子

【キーワード】 留学交流、基本理念、交流コーディネーション、留学生アンケート

1. はじめに

大学における留学交流は、その他の教育・研究活動及び学生サービス活動と同様、基本理念に基づいた方針策定に拠って具体的な企画・計画、実施が行われ、さらに活動への評価の過程を経て、次の活動についての方針を策定していく必要がある。基本理念が明快に打ち出されていれば立ち戻るべき根本を見失うことなく具体的な方針策定が行われると同時に、場合によっては具体的な企画・実施・評価のプロセスが基本理念に修整を迫ることもありえよう。留学交流の質の向上を図るためには、こういった理念—方針策定—計画—実施—評価のプロセスが循環的に機能することがぜひとも必要である。

2003年2月に、学長諮問委員会「留学生の日本語教育検討委員会」^{註1}が設置され、2004年8月に答申が提出された。この答申『留学生の日本語教育』に関する答申—国際教育・研究センター設置について—（以下「鈴木答申」^{註2}）においては、具体的な実践課程に結びついた理念の不在を問題として指摘し、確立すべき理念の方向性を述べている（「鈴木答申」要旨p.1）。

本稿は、ここでの理念、考え方を再度確認して、理念の抽象的な議論に陥らないために、具体的な業務の内容に踏み込んで再確認し、留学交流による大学国際化を実現するための基本姿勢について提言を行うことを目的としている。具体的な業務の内容に踏み込むための手がかりとして、「留学生の日本語教育改革委員会」^{註1}に2005年9月に提出した「国際教育・研究センター（仮称）における調査項目案」（資料1）を紹介する。今後の留学交流業務を検討するための一助となれば幸いである。

2. 鈴木答申における留学交流の理念

本学建学の精神として掲げられてきた「東西文化の融合」「アジアの異文化理解」を現代において創造的に実現するためには、留学交流においてどのような理念が必要なのか。鈴木答申は次のように述べている。

本学は海外からの留学生を積極的に受け入れ、日本語教育のみならず日本の歴史や文化などについての教育を行なうと同時に、世界各地からの留学生同士及び一般学生との不断の相互交流を行なうことによって、次世代を担う若者が国際協調と平和共存の精神を涵養し、異文化に対する理解と寛容の精神を養うことを目標としている。

したがって、留学生を受け入れることは、単に留学生に教育の機会と環境

を提供するだけではなく、一般学生にも、国際社会の一員としての意識を高め豊かな国際的な感覚を養うとともに、自国および自分自身に対する理解をより一層深めることを目指すものである。

さらに、大学自身にとっても、異なる文化的背景を持つものがあらゆる場面で日常的に交流するといった多文化的な環境と国際的な雰囲気醸成することは、社会的責任の大きい高等教育機関としてのたゆまぬ発展にも少なからず寄与し得るものである。留学生の受け入れにおいて建学の精神「東西文化の融合」を具現化することは本学の社会的使命であると言える。

(「鈴木答申」 p.12)

ここで、強調すべきことは、留学交流の本来の目的が、大学としてどのような取り組みを行なったかという点に留まるのではなく、そこでの交流活動を行う一人一人の学生の教育にいかに関与され、実現されていくかという点にあることである。こうした交流活動は、大学を構成する一人一人が「国際社会の一員としての意識を高め豊かな国際的な感覚を養うとともに、自国および自分自身に対する理解をより一層深め」てこそ、意味を持つことである。

鈴木答申に示された理念の特徴は、そうした観点に立って、受け入れた留学生を、留学生に限定・特化した留学生教育の対象としてのみ位置づけるのではなく、一般学生の教育に資する人的リソースとして位置づけているところにある。留学生教育の充実はいち一般学生の教育の充実ともなりうることを指摘しているのである。

また、本学留学生教育の潜在的課題を指摘した部分においては、第二の課題として、次のように述べられている。

留学生と一般学生との相互交流を求めるニーズに対し、異文化を背景にした者同士のコミュニケーションに対する理解を深め、よりよき異文化コミュニケーターあるいは日本語教育専門家となる機会を作り出すことを、大学における教育の一環と位置づけることである。

(「鈴木答申」 要旨 p.1)

つまり、留学生という異文化的存在を一般学生にとっても人的教育リソースと捉えたのと同様に、留学生にとっても一般学生は、異文化コミュニケーターとしての成長を促す教育的取り組みを通じて、重要な教育リソースとなりうるということである。

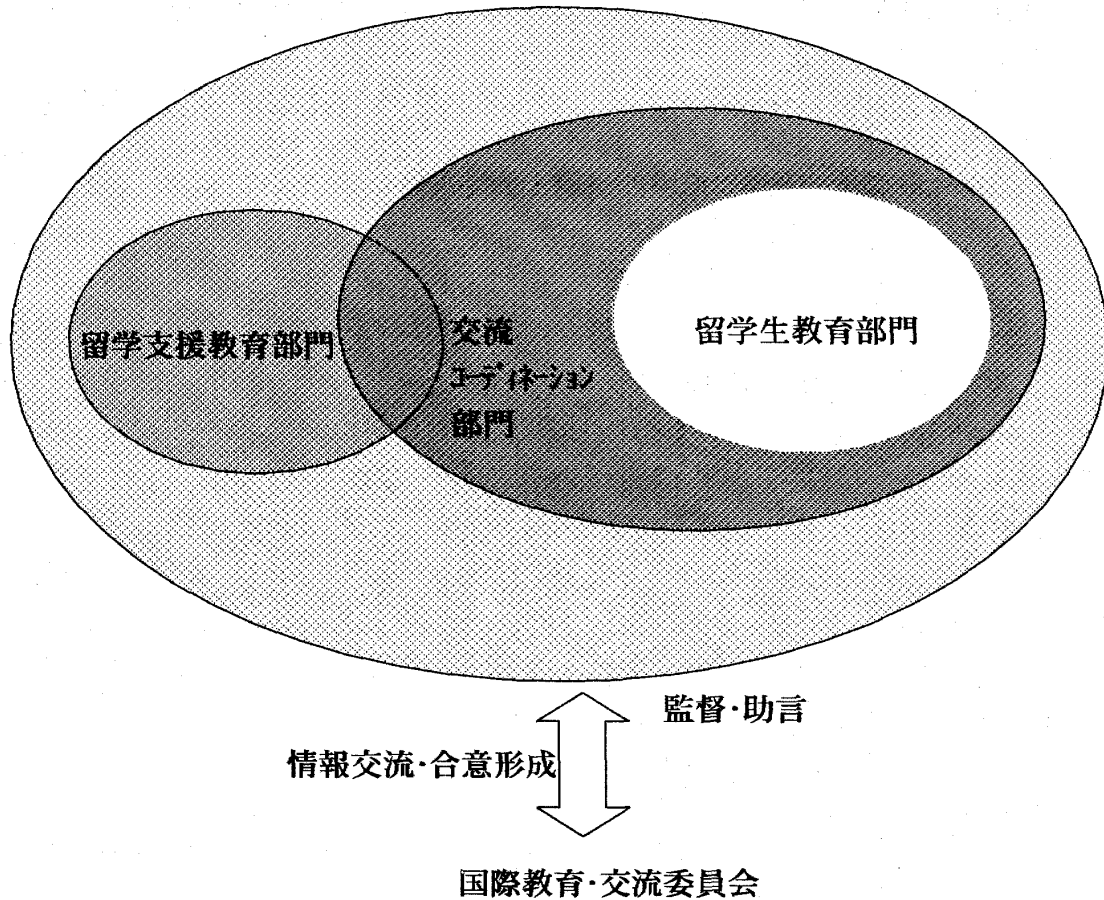
こうしたことを実現していくためには、ただ単に、留学生に対する教育と一般学生に対する国際化のための教育とがそれぞれ別々に進められていくだけでなく、相互に教育的資源として積極的に関連付け、結びつけていく必要があるという認識こそ、鈴木答申の掲げる理念の最も特徴的な点だといえる。

そして、こうした理念を実現していくための仕組みとして、センター構想の中には「交流コーディネーション部門」が設けられている。

3. 新センターの部門構成

鈴木答申で構想された新センターは、上の理念に対応して4つの部門をもっている。それぞれの部門が担う業務は各々別個に独立した部分も有するが、相互に密接な連携を

必要とする部分もあり、部門の関係が次のような概念図で示されている。



(鈴木答申 図2 国際教育・研究センター業務概念図)

実態調査部門はセンター全体を包含するものとして位置づけられており、センター所属教員と事務スタッフがセンター業務の全体像を常に見渡しつつ、個々の業務の意義を十分に理解して遂行すること、本学留学交流についての情報を学内外に責任をもって発信することが企図されている。

末尾に付した「国際教育・研究センター（仮称）における調査項目案」は、各部門の業務内容に対応する調査項目を列記した資料である（資料1）。以下、各部門の業務内容を簡略に紹介する。

3. 1. 留学生教育部門

日本語教育を中心とした留学生教育全般の質的向上を目的とした部門である。実際の業務内容としては以下の4つが想定されている。

- (1) 外国人留学生のための日本語教育プログラムの実施
- (2) 日本語学習のためのリソースセンターの運営
- (3) 外国人留学生の生活相談及び指導
- (4) 外国人留学生の募集および入学者選抜試験の実施

特に、(1)の日本語教育プログラムにおいては、大学における正規課程への参加を

可能にするための日本語能力の養成を中心的な目標に掲げ、統一的な一貫したスケールによって留学生の日本語能力を判定し、そのスケールに基づいて、予備的な前段階としての「基礎」と正規課程と平行して受講することを前提とした「発展」とに、カリキュラムの編成を考案している。また、このことは、予備教育課程のカリキュラムと学部でのカリキュラムの相互乗り入れを可能にすることを目指している。

3. 2. 交流コーディネーション部門

留学生と一般学生の交流を促進することを目的とした部門である。交流を表面的なものからより実質的で継続的なものにしていくためにつぎの4点を主な業務内容としている。

- (1) 一般学生（特に留学経験学生や先着留学生）による留学生支援の実施
- (2) 交流のための諸行事の実施及び学生主催行事の支援
- (3) 留学生教育部門における日本語クラスを活用した日本語教育専門家養成プログラムの開講
- (4) 海外提携校との協力で行なう短期研修交流プログラムの実施

3. 3. 留学支援部門

本学から海外の提携校に留学生として派遣される一般学生の留学および事前／事後の支援活動を行うことを目的とした部門である。特に、留学希望者・留学経験者間のネットワークを構築し、一人の留学経験をできるだけ多くの学生が共有できる支援体制を目指している。

3. 4. 実態調査部門

上の3つの部門における国際交流活動及び学内外における国際交流に関する業務を円滑に実施していくための調査及び情報収集を行なう部門である。

4. 調査の途中報告

末尾に付した「国際教育・研究センター（仮称）における調査項目案」は、第1回「留学生の日本語教育改革委員会」^{註1}において委員長より留学生対象のアンケート調査実施が提案されたのを承け、新組織の業務内容策定指針を得るために必要な調査の中に留学生対象アンケートを位置づけることを目的として作成され、第3回委員会に提出されたものである。この第3回委員会においては、留学生対象アンケート実施に先立って、予備調査として教員・職員対象アンケート、留学生対象予備調査の2種の調査を行うことが決定され、調査実施ワーキンググループが設けられた^{註3}。予備調査2種は、それぞれ2005年10月、2005年12月～2006年1月に実施され、前者は教員・職員65名、後者は留学生61名から回答を得た。これらの予備調査の結果をもとに、2006年5月に「2006年度留学生アンケート：本学留学に関する実態及び意識調査」（資料2）^{註4}の調査票配布及び回収が始められ、253名の留学生から回答を得ており、集計・分析作業が進行中である。

ここでは、「国際教育・研究センター（仮称）における調査項目案」のうち、教員・職員対象予備調査「留学生の受け入れ・教育等についてのアンケート」（資料3）及び「2006年度留学生アンケート：本学留学に関する実態及び意識調査」において実施済みの関連項目を一覧として掲げる。項目末尾の括弧内に調査の種類と質問項目番号を付した。調査の種類は、「2006年度留学生アンケート：本学留学に関する実態及び意識調査」の調査を「留」、教員・職員対象の調査を「職」として示した。「職」「留」の後の数字が各調査における質問項目番号である。

1. 留学生教育部門

1-1. 日本語教育

1-1-1. 日本語スケール、シラバス（教育内容、項目）作成に向けての調査

- ・留学生の実態調査及び意識調査

- 学部・大学院での授業における日本語使用の実態・意識及び日本語使用ニーズ（留2）
- 授業以外での学内での日本語使用の実態・意識及び日本語使用ニーズ（留1、留2）

1-1-2. 授業方法の選択に向けての調査

- ・日本語授業の実態調査（授業方法の有効性に関する調査）（留6）

1-2. 留学生オリエンテーション・留学生カウンセリング

1-2-1. 生活面における問題

- ・奨学金・授業料減免（留27～31）、宿舍提供及び斡旋（留13～22）、アルバイト斡旋（留23～26）、保証人制度および保証人との関係の現状（留9、留12、留17、留24～25、留29、留33～35）
- ・上記各項目に対する留学生の評価—奨学金（留32）、

1-2-2. 学習面における問題

- ・授業における留学生の日本語以外の問題の実態

留学生の意識

- 授業参加（留7）、課題・試験の対応（留9）
- 最大の問題とその対応の方法（留8）
- 問題解決に当たっての情報の取得方法（留9）
- 人的つながりの構築実態（留9、留35、留36、職1～4）
- 教員（担任・ゼミ担当・卒論担当等重要な役割を果たす受け入れ教員）との関係構築の実態（留9、留35、職1、職2、職3、職4）

教員の意識

- 授業やその計画において、どのような点で留学生に対する配慮をしているか（職5～6）
- 課題や試験を課す上で留学生にどんな配慮をしているか（職5～6）
- 成績をつける際に留学生にどんな配慮をしているか（職5～6）
- 留学生に対する配慮をすることについてどんな意識を持っているか

(職5～6)

2. 交流コーディネーション部門

2.1 留学生との関係

2-1-1. 教職員・一般学生の留学生についての知識・留学生との交流についての意識

学内における留学生の日本語以外の問題をどうとらえているか(職5～6)

2-1-2. 留学生と一般学生の交流、留学生どうしの交流の実態

・学内外における交流の実態

どのような機会、場面で、どのような内容の、どのくらい頻繁に(留9、留12、留17、留24～25、留29、留33～35)

・交流の成果をどう評価しているか(留36～37)

6. 将来的な課題、その他

・留学生に対するキャリア支援教育・キャリア支援活動に関する実態調査及びニーズ調査(留10～12)

5. おわりに

2002年9月に鈴木一道学務局長宛に提出された『大東文化大学における日本語教育』に関する答申^{注1}において、本学留学生教育の問題点が多方面にわたって指摘され、抜本的な改善が喫緊の課題とされてから、実に5年半が経過した。この間に、入管の留学生ビザ発給の厳格化、本学別科の学生募集停止、本学北京事務所設置等々、留学生受け入れをめぐる学内外の情勢は刻々と変化してきた。今回ここで報告した鈴木答申をもとに更に学内的検討が加えられ、2008年度に国際交流センターが改組されて教学組織と事務組織を包含する新組織として発足するにあたり、本学留学交流は新たな局面を迎えることとなる。本稿が本学留学交流の理念の根幹を問い直し、理念に基づく施策を策定するための一助となれば幸いである。

注1 2002年度から2005年度までに本学留学生教育改革に関わる諮問委員会として設置されたものは下のとおり。

日本語教育検討小委員会 2002年4月～2002年9月

留学生の日本語教育検討委員会 2003年2月～2004年8月

留学生の日本語教育検討委員会 2005年6月～2006年6月

注2 鈴木答申の内容についてより詳しくは大河原(2005)を参照のこと。

注3 メンバーは、三上紀史(委員長、別科長)、前田理佳子(日本語学科講師)、大河原尚(別科嘱託講師)、笠原好江(国際交流センター職員)、箕輪美佳(国際交流センター職員)の5名。(敬称略、役職名等は当時。)

注4 調査は4種の調査票によって実施された。資料2として掲げたもののほかに、同一内容のふりがなつき版、中国語簡体字版、韓国語版がある。

【参考文献】

大東文化大学 留学生の日本語教育検討委員会 (2004) 『『留学生の日本語教育』に関する答申—国際教育・研究センター設置について—』

大河原尚 (2005) 「大東文化大学における別科及び留学生受け入れに関する問題と今後—平成16年度日本私立大学団体連合会日本語教育連絡協議会における報告から—」『大東文化大学別科論集 別科日本語教育』第7号、大東文化大学別科日本語研修課程、pp.12-25

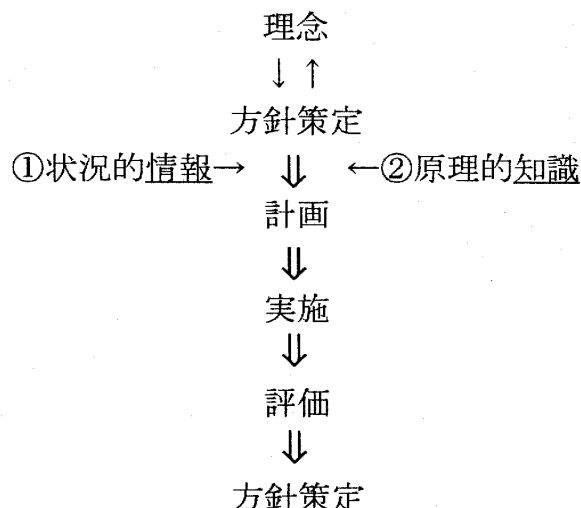
<資料 1>

国際教育・研究センター(仮称)における調査項目案

I. 調査の必要性

国際教育・研究センター(仮称)において、実際の国際交流・教育活動を企画・計画し、実施し、評価し、それをまた新たな計画につなげていくといった循環的な機能が果たされていくためには、一連の継続的な調査が必要である。その調査の目的には、以下の二つの側面がある。

- ① 日々変化する学内外の状況・情勢を把握するために必要な情報を得ること。
- ② そうして得た情報をつなげて、留学生、留学生交流・留学生教育などに関する原理的知識を得ること。他の分野や機関での研究成果に示される知見を含め、本学の留学生交流・留学生教育の質的向上を図るために必要な知識を蓄積すること。



以下、必要だと考えられる調査項目をあげる。ここでは、新センターの機能の全体像を俯瞰するために、できるだけ網羅的に項目を列挙した。現時点で、ある程度詳細に調査項目が想定しうる部分と、パイロットスタディの結果を得てから精緻化していくべき部分とがあるため、項目のレベルは不揃いである。実際の調査実施においては、まず項目の優先順位をつけ、まとめて調査すべき項目を関連づける作業が必要となる。また、全学の関連部署との協力が不可欠である。

2007年度新センター発足と同時に日本語教育部門新プログラムを開始するためには、p. 2及びp. 4の点線で囲った項目についての調査及び分析を2006年度秋頃までには完了しておく必要がある。(点線で囲った調査項目の調査概要について：第2回留学生の日本語教育改革委員会配付資料「新プログラムの指針策定のための基礎調査について」参照。)

II. 調査項目

1. 留学生教育部門

1-1. 日本語教育

——アカデミックリテラシー教育としての日本語教育カリキュラム構築のための調査

1-1-1. 日本語スケール、シラバス（教育内容、項目）作成に向けての調査

- ・留学生の実態調査及び意識調査
 - 来日以前及び入学前の日本語学習歴、日本留学に対する意識、日本留学の目的、日本での留学生活に関する知識
 - 学部・大学院での授業における日本語使用の実態・意識及び日本語使用ニーズ
 - 授業以外での学内での日本語使用の実態・意識及び日本語使用ニーズ
 - 学外での日本語使用の実態及び日本語使用ニーズ・教職員の実態調査及び意識調査
 - 授業における留学生の日本語使用についての評価、期待する日本語使用
 - 授業以外での学内での日本語使用についての評価、期待する日本語使用

1-1-2. 授業方法の選択に向けての調査

- ・日本語授業の実態調査（授業方法の有効性に関する調査、留学生による授業評価）
- ・教師の教授能力向上、教師間の連携に関する調査（各教師の日本語教育観や日本語授業での期待、日本語授業運営に関わる教師間の連携行動の実態調査）

1-1-3. 教材（独自教材）作成に向けての調査

（扱うべき語彙・表現や日本語使用場面等の調査）

1-1-4. 基礎コースで開講する日本語以外の授業に関する調査

1-1-5. 発展コースで必要な授業に関する調査

1-2. 留学生オリエンテーション・留学生カウンセリング

1-2-1. 生活面における問題

- ・奨学金、授業料減免、宿舍提供及び斡旋、アルバイト斡旋、保証人制度および保証人との関係の現状
- ・上記各項目に関する国内他大学の状況
- ・上記各項目に対する留学生の評価

1-2-2. 学習面における問題

- ・授業における留学生の日本語以外の問題の実態（留学生、教員双方が対象）
留学生の意識（授業形態、学科、学年、母語、出身地、男女などの別で）
 - 時間割作成～授業参加～課題・試験の対応～成績（単位取得制度・学位授与制度を含む）についての問題意識

- 最大の問題とその対応の方法
- 問題解決に当たっての情報の取得方法
- 人的つながりの構築実態
- 教員（担任・ゼミ担当・卒論担当等重要な役割を果たす受け入れ教員）との関係構築の実態
- 図書館、情報センター等学習リソースへのアクセス状況
- 上記4点の時間的变化

教員の意識

- 留学生を授業においてどういう存在として位置付けているか
（留学生が授業に参加することの意義や必要性をどう考えているか、留学生に期待することは何か）
- 授業やその計画において、どのような点で留学生に対する配慮をしているか
- 課題や試験を課す上で留学生にどんな配慮をしているか
- 成績をつける際に留学生にどんな配慮をしているか
- 留学生に対する配慮をすることについてどんな意識を持っているか
- 留学生が参加する授業を行なう上での自身の課題は何か

1-2-3. 心理面における問題

1-2-4. 法律上の問題

1-2-5. 留学生対象の相談活動の実態

個々のケースにおける問題の性質、原因、対応策の調査

1-3. 学生募集から受け入れまで

1-3-1. 募集活動の方法とそれぞれの方法の有効性、問題点など

1-3-2. 入学者選抜

- 別科生・交換留学生・学部学生・大学院生選抜基準の検討
（これまでの基準の確認、何をどうみるか）
- 現在学生の日本語能力
- 選抜の方法として何が適切か
- 選抜基準及び結果の表現方法として何が適切か
（学内に対して分かりやすく、入学後の活用へ）

1-3-3. 留学生入試の問題作成

- 問題形式の検討
- 日本語スケールをいかに入試問題に反映させるか

1-3-4. 入試問題、日本語スケールの妥当性・信頼性の検証

1-4. 別科カリキュラムと学部カリキュラムとの相互乗り入れ

1-4-1. どんな能力がどの程度あれば学部授業が履修可能か

1-4-2. 別科と学部の授業を同時に履修できるか

- 制度上、時間割上の問題点は何か
- 各学部のどのような科目なら可能か
- 別科科目と学部科目の量的なバランスとして適切なのはどの程度か
- 別科科目と学部科目の質的なバランスはどうか

1-4-3. 別科科目と学部科目の同時履修が行われる場合、日本語授業への影響及び学部授業への影響がどのように現れるか

- 同時履修によって日本語能力向上が図りうるか
- 同時履修のために日本語の授業で必ずやっておかなければならないことは何か

1-4-4. 相互乗り入れの効果を一年後あるいは半期後にどう評価するか

1-4-5. 学部側から別科への要望は何か

- ・どんな能力がどの程度あれば別科での日本語授業が必要ないか
- ・日本語能力によって学部での履修科目を制限すべきか
- ・日本語コースを終えた学生が学部の授業で問題がなかったか

1.5 日本語学習リソース・センターの運営

- ・どのようなリソースが必要か
- ・利用について
 - どんな学生が利用するか
 - 何を利用するか
 - 頻度はどのぐらいか
 - リソースの活用法として何がありうるか
- ・ランゲージエクスチェンジの実態と効果
- ・日本語学習における他学生とのネットワークの形成と効果
- ・日本語学習カウンセリングに関する調査（活動内容、アドバイスの仕方など）

2. 交流コーディネーション部門

2.1 留学生との関係

2-1-1. 教職員・一般学生の留学生についての知識・留学生との交流についての意識

学内における留学生の日本語以外の問題をどうとらえているか

(留学生、教職員、一般学生対象)

2-1-2. 留学生と一般学生の交流、留学生どうしの交流の実態

- ・学内外における交流の実態
 - どのような機会、場面で、どのような内容の、どのくらい頻繁に
 - ex. 本学現行チューター活動における参加者間の交流の実態
 - ex. 本学留学生会館常駐日本人学生と会館入居学生間の交流の実態
- ・交流相手に対する意識

- ・そういう相手と交流することに対する意識
- ・その交流に期待していること
- ・交流の成果をどう評価しているか
- ・大学在学期間を通しての交流の変化
- ・交流することによってできた関係は継続・定着したか
 - 継続・定着までのプロセス
 - どの程度継続・定着したか
 - どのような関係として継続・定着したか
 - そうした関係に対する意識

2-2. 留学生の学内行事への参加における問題（留学生、行事スタッフ対象）

- ・留学生対象
 - 全学的な行事について
 - 行事の意義をどうとらえているか
 - どのように、どんな情報を得ているか
 - 留学生対象の行事について
 - 行事の意義をどうとらえているか
 - どのように、どんな情報を得ているか
- ・スタッフ対象
 - 留学生（あるいは一般学生）が参加することについて
 - その意義をどう考えているか
 - 参加を促すための方法、配慮
 - 参加に対する意識や期待
 - そのための課題や問題点

2-3. 交流プログラムに関して

- ・交流プログラム設計のための調査
 - 留学生及び一般学生に対する交流に関する意識・ニーズ調査
 - 留学生に対する日本での生活におけるソーシャルスキルトレーニング
 - 日本人学生に対する留学生事情教育(チューターオリエンテーション)
 - 日本人学生に対する留学生の背景文化教育
 - 学生相談室グループエンカウンターアシスタントとしての留学生に対するニーズ
 - 現行交流プログラムに対する評価
(参加留学生・一般学生・実施主体対象)
 - 交流プログラムに対するニーズ
- ・留学生支援のための実態調査
- ・プログラムの成果を評価するための調査
- ・改善策を探るための調査
- ・海外提携校とのタイアップで行なう短期研修プログラムに関する調査
- ・国内外の日本語教育における交流教育事情に関する調査

- ・日本語教育専門家養成プログラムに関する調査
 - 日本語学科及び全学の在学生における日本語教育専門家志望の実態
 - 全学の日本語教育学関連科目の受講実態
- ・日本語・日本以外の言語的・文化的背景を持つ学生に関する調査

3. 留学支援教育部門：海外教育機関への留学支援のための実態調査

海外へ目を向けるまでのプロセス

海外留学を決意するまでの障害、問題点

個人としての問題（心理的問題、目標設定の問題など）

大学の体制としての問題（提供情報の量と質、提供方法など）

留学決定までの準備における問題（語学学習の支援など）

決定後の出発までの準備期間における問題・課題

出発後・滞在中の問題（生活・学習上の支援、心理的問題、危機管理など）

帰国後の課題

個人として（留学経験を生かし、次の目標につなげる上での問題）

大学の体制として（個人の経験を次の留学希望者に伝えていく際の問題）

4. センター全体としての機能（実態調査部門）

4-1. 留学生の受け入れ方針の策定に向けての調査

- ・世界的な人的流れの動向（中国やASEANの状況など）
- ・日本政府の留学生受け入れ政策の動向（文科省、外務省、入管など）
- ・受け入れ規模をどうするか
- ・どのような学生を受け入れていくか
 - 予備教育を必要とする学生
 - 交換協定校からの1年から半年以上在籍する学生
 - 交換協定校からの短期（半期以下）在籍する学生
 - 日本語学習や日本での生活経験を得るために来日する学生
 - 一般学部留学生
 - 大学院生、研究生
- ・どの地域から受け入れるか
 - 各地域における日本や大東文化大留学のニーズ
 - どのような単位取得制度・学位授与制度を設けるべきか
 - 留学実現の障害や問題
 - どのような広報・募集活動が必要あるいは可能か
 - 入国手続の面での課題や問題はあるか
- ・保証人制度の有効性

- ・留学生の出身地や出身教育機関における日本語教育事情
現地における日本に対する意識や入手可能情報の程度

4-2. 学内調査実施に関する調査

- ・学内に留学生が存在することによる問題とメリットに対する認識と調査との関係
(調査の妥当性及び調査が認識に与えている影響)
- ・学内に情報をどう還元していくか

4-3. 学外の情勢を把握するための調査

- ・他大学などでの留学生受け入れや国際交流に関する事例研究
- ・国内における留学生の動向・推移
- ・国内日本語学校事情や海外現地の事情
- ・世界各地における大東文化大学の認知度や位置づけ(留学生、海外教育機関対象)

5. センターへの業務移行に関連して

- ・学内における現行の留学生に関する調査状況
国際交流センター、学生部、各学部学科、総合教育科目留学生科目担当者、別科、交換留学生日本語特別プログラム担当者等が行っている調査の実態及び調査結果
- ・海外提携校との交流実態の整理
- ・国際交流センターでの現行業務の整理

6. 将来的な課題、その他

- ・海外機関との連携の可能性(現地でのニーズ)
- ・学園関係者(留学生の家族、客員研究員、外国人教員等)の日本語学習支援に関するニーズ調査
- ・地域(板橋区、東松山市)における国際交流に関するニーズ調査
- ・留学生に対するキャリア支援教育・キャリア支援活動に関する実態調査及びニーズ調査
- ・卒業直前留学生における日本社会適応のための日本語等サポートに関するニーズ調査
- ・卒業留学生のネットワーク作りに関する実態調査及びニーズ調査
- ・卒業・帰国留学生のフォローアップ体制の実態調査及びニーズ調査
- ・本学父兄会における留学生等との国際交流のニーズ調査

以上

<資料2>

2006年度 留学生アンケート

本学留学に関する実態及び意識調査

大東文化大学では、留学生に対する教育とサービスを向上させるために、留学生のみなさんにご意見をうかがうことになりました。今回のアンケートは、留学生全員にお願いしています。

回答いただいた内容は、上の目的以外には使いません。また、回答の内容によってあなた個人やほかの留学生のみなさんに不利益が生じることがないようにします。率直なご意見をお書きくださいますようお願いいたします。

質問の内容は次のページの一覧のとおりです。

ご協力をどうかよろしくお願いいたします。

2006年5月6日 大東文化大学 留学生の日本語教育改革委員会

<提出先> このアンケート用紙をあなたに渡した人に渡してください。

<提出時の注意> アンケート用紙がはいっていた封筒に入れて封をしてください。

学年・所属・出身地域等をおしえてください。必ずお書きください。

1. 学籍番号の最初の5桁を書いてください。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2. 出身地域 (1) 中国 (2) 台湾、韓国
(3) 中国、台湾、韓国以外のアジア
(4) (1)(2)(3)以外の地域
3. 性別 (1) 男 (2) 女

全留学生対象

本学留学に関する実態及び意識調査

I. 学内における日本語使用及び日本語授業について

II. 専門科目における学習について

III. 卒業・修了後の進路選択のための支援について

IV. 宿舎・住居について

V. アルバイトについて

VI. 奨学金について

VII. 日本での留学生活における人間関係について

VIII. これからの留学生活に期待すること・大学への要望

回答方法について

a. 2つのうちのどちらかを○で囲んでください。

例1 【 (1) はい ・ (2) いいえ 】

例2 【 (1) はい ・ (2) いいえ 】

b. 3つ以上の選択肢の中からあてはまるものを選んでください。

例 あなたが住んでいるのは何ですか。

(1) 民間の賃貸住宅(アパートやマンションなど)

(2) 家族や親戚の家

(3) 学生用の宿舎(寮など)

(4) その他 ()

あてはまるものがないときは、「その他」のところに具体的に書いてください。

例 あなたが住んでいるのは何ですか。

(1) 民間の賃貸住宅(アパートやマンションなど)

(2) 家族や親戚の家

(3) 学生用の宿舎(寮など)

(4) その他 ()

c. どのくらいあてはまるかを数字で表現してください。数字を○で囲んでください。

例 留学生活を送る上でもっと自分の日本語能力を向上させる必要があると思いますか。

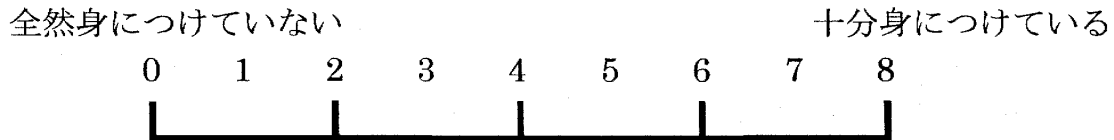
全然思わない

大いに思う



I. 学内における日本語使用及び日本語授業について

- 1) 留学生活を送る上で必要な日本語を今のあなたはどのぐらい身につけていると思いますか。



- 2) 学内での生活（講義・ゼミ・事務窓口・相談・その他）で自分の日本語能力が不足していると感じるときはどんなときですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

(1) 特に感じることはない

講義・ゼミなどで

- (2) 授業中教員の話聞いてわからなかった時
 (3) 授業中日本人学生と話す時
 (4) 授業で配布された資料がわからなかった時
 (5) 授業の予習、復習をする時
 (6) 授業の課題や試験の準備をする時
 (7) 授業外で教員と話す時
 (8) その他 ()

事務窓口などで

- (9) 国際交流センターの職員と話す時
 (10) 学生相談室や医務室で相談員や医師と話す時
 (11) 図書館で職員と話す時
 (12) 学生課、教務課、学部・学科事務室などで職員と話す時
 (13) 就職部で職員と話す時
 (14) 掲示板の掲示物の内容がわからなかった時
 (15) その他 ()

その他の場面で

- (16) 授業外で日本人学生と話す時
 (17) 食堂や書店で店員と話す時
 (18) インターネットやホームページから日本語で情報を得る時
 (19) その他 ()

3) 留学生のための日本語の授業を履修したことがありますか。

【 はい・いいえ 】

4) その授業はあなたの日本語能力向上に役立ちましたか。

全然役立たなかった

大いに役立った



5) 留学生のための日本語の授業がもっとあったほうが良いと思いますか。

【 はい・いいえ 】

6) どのような内容の日本語授業があつたら参加したいと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

《 授業内容について 》

実用的な日本語が身につけられる授業

- (1) 学内の生活や日常生活で使う日本語の授業
- (2) 発音やアクセントなどの練習ができる授業
- (3) 漢字の読み方や練習ができる授業
- (4) 本や雑誌などを読む練習ができる授業
- (5) 日本語の文章の書き方についての授業
- (6) 卒論やレポートなどの書き方についての授業
- (7) 日本での就職やビジネス、会社で使う日本語

日本語についての知識が得られる授業

- (8) 文法の理解を深める授業

日本や世界の事情・文化についての知識が得られる授業

- (9) 日本人の生活習慣や考え方について知る授業
- (10) 日本の歴史、地理、伝統文化などについての授業
- (11) 日本社会の最新の事情について知ることができる授業
- (12) 日本の映画や文学作品を鑑賞できる授業
- (13) 日本と外国(例えば自分の国)との比較や関係について知ることができる授業

《 授業方法について 》

- (14) 日本語での会話ができる授業
- (15) 個別に指導してくれる授業
- (16) 教室外での活動がある授業
- (17) 日本人学生や一般の日本人との交流ができる授業

その他の授業内容・方法など ()

II. 授業と学習について

- 7) 留学生のための日本語授業以外の授業（講義・演習）で、満足できない授業はありますか。 【 はい・いいえ 】

上で「はい」と答えた方におたずねします。満足できない授業は、どんな授業ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

内容・レベル

- (1) 興味・関心を満足させる内容ではない
- (2) レベルが高すぎる
- (3) レベルが低すぎる

教員の対応

- (4) ことばが聞き取りにくい
- (5) 授業方法が自分に合わない
- (6) 授業中に教員が一方向的に話しているだけである
- (7) 個別指導がない
- (8) 教員の雑談や授業に関係ない話が多すぎる
- (9) 学生の質問に答えてくれない
- (10) 留学生に対する配慮が少ない
- (11) 板書が読みにくい

その他

- (12) クラスの人数が多すぎる
- (13) 留学生が少ない
- (14) 教室の環境が悪い
- (15) その他 ()

8) 授業あるいは専門の勉強について行けないと感じることはありますか。

【 はい・いいえ 】

上で「はい」と答えた方におたずねします。ついて行けないと感じるのは、どんな場合ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- (1) 基本的な知識が足りない
- (2) 課題の意図がわからない
- (3) 資料の内容理解が難しい
- (4) 教員の教え方がわかりにくい
- (5) 理解に必要な関連知識が足りない
- (6) わからない言葉がたくさんある
- (7) 理解の助けとなる資料の量が少ない
- (8) 理解しなければならない資料や本が多すぎる
- (9) 進度が速すぎる
- (10) その他 ()
- (11) 特にない

9) 授業の予習や復習、あるいは課題（レポート、発表の準備など）や試験の準備を行なう上で問題を感じたとき、どうしますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- (1) できるだけ自分で調べる
- (2) 留学生の先輩に相談する
- (3) 同じ学科の留学生の知人に相談する
- (4) 留学生の友人に相談する
- (5) 同じ学科の日本人学生に相談する
- (6) 日本人学生の友人に相談する
- (7) その授業の教員に相談する
- (8) その授業以外の教員に相談する
- (9) 自分でできるところだけやる
- (10) やらない
- (11) その他 ()
- (12) 特に問題は感じない

Ⅲ. 卒業・修了後の進路選択のための支援について

10) 卒業・修了後、日本で就職あるいは進学したいと思っていますか。

【 はい・いいえ 】

理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- (1) 日本でもっと勉強したいから
- (2) 日本での社会経験をつみたいから
- (3) 日本の会社で働いてみたいから
- (4) 日本の社会や日本人についての理解を深めたいから
- (5) 日本で勉強した知識や日本語などの能力を生かしたいから
- (6) 評価や知名度が高い大学・企業に入ってキャリアを身につけたいから
- (7) 日本に家族や親戚などがいるから
- (8) 日本は慣れていて生活がしやすいから
- (9) 経済的な自立がしたいから

(10) 帰国したいから

(11) 日本にいたい、帰国しなければならない事情があるから

(12) その他 ()

(13) 特にない

11) 卒業・修了後の進路（就職・受験など）について、大学からどんな支援があればいいと思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- (1) 具体的にはわからないが、もっと留学生のための支援をしてほしい
- (2) 就職や進学についてのいろいろな情報をもっと提供してほしい
- (3) 就職活動についての説明会をもっとしてほしい
- (4) 留学生を採用する企業の情報をもっと提供してほしい
- (5) 留学生一人一人個別に相談や指導をしてほしい
- (6) 企業などへの推薦をしてほしい
- (7) 留学生の先輩の就職や進学についての話が聞ける機会を作ってほしい
- (8) 試験や面接などの準備のための支援をしてほしい
- (9) その他 ()

(10) 特にない

12) 卒業・修了後の進路について相談したいことがあった時、誰に相談しますか。
あてはまるもの全てに○をつけてください。

- (1) 学内または同じ学科の留学生の友人
- (2) 学内の留学生の知人
- (3) 学内の留学生の先輩
- (4) 学内の日本人学生
- (5) 学内の学部・学科以外の教員
- (6) 国際交流センターのスタッフ
- (7) 就職部のスタッフ
- (8) 学部・学科の教員
- (9) 学部・学科の事務員
- (10) 学外の知人
- (11) 保証人
- (12) 学生相談室のスタッフ
- (13) 同居している家族や親戚
- (14) 同居していない日本にいる親戚
- (15) 母国の家族
- (16) 誰にも相談しない
- (17) その他 ()

IV. 宿舎・住居について

13) 今どこに住んでいますか。

- (1) 板橋区
- (2) 練馬区
- (3) 豊島区
- (4) 和光市
- (5) 川越市
- (6) 坂戸市
- (7) 東松山市
- (8) その他 () 区・市・町・村)

14) 最寄りの駅を書いてください。() 駅)

15) 自宅から大学までの通学時間を教えてください。

板橋キャンパスまで

- | | |
|--------------------|------------------|
| (1) 30分以内 | (2) 30分以上1時間以内 |
| (3) 1時間以上～1時間30分以内 | (4) 1時間30分～2時間以内 |
| (5) 2時間以上～3時間以内 | (6) 3時間以上 |

東松山キャンパスまで

- | | |
|------------------|------------------|
| (1) 30分以内 | (2) 30分～1時間以内 |
| (3) 1時間～1時間30分以内 | (4) 1時間30分～2時間以内 |
| (5) 2時間～3時間以内 | (6) 3時間以上 |

16) あなたが住んでいる住宅の種類は何ですか。

- (1) 民間の賃貸住宅(アパートやマンションなど)
- (2) 家族や親戚の家
- (3) 学生用の宿舎(寮など)
- (4) 公営の賃貸住宅(団地など)
- (5) 企業の寮・宿舎(企業が留学生のために空室を貸しているもの)
- (6) ホームステイ
- (7) その他 ()

17) どこから紹介してもらいましたか。

- (1) 不動産屋
- (2) 留学生の友人
- (3) 留学生の先輩
- (4) 保証人
- (5) 家族や親戚
- (6) 学外の知人・友人
- (7) 学内の日本人学生
- (8) 日本学生支援機構(JASSO)
- (9) 民間の留学生相談室
- (10) 大東文化大学国際交流センター
- (11) 大東文化大学学生部
- (12) 大東文化大学教員
- (13) 新聞・雑誌など
- (14) その他 ()

18) 入居時に何か問題がありましたか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- (1) 家賃などの条件と自分の希望が合う部屋がなかなか見つからなかった
- (2) 敷金・礼金が高かった
- (3) 何度か断られた
- (4) 保証人がなかなか見つからなかった
- (5) 外国人なので余計にお金を支払わなければならなかった
- (6) 不動産屋や家主の対応で不愉快な思いをした
- (7) 外国人が入居できる物件が少ない
- (8) 特になし
- (9) その他 ()

19) 今の住居に決めた主な理由は何ですか。3つまで選んで、○をつけてください。

- (1) 部屋の広さ・設備・日当たり等が適当
- (2) 家賃が適当
- (3) 通学に便利
- (4) アルバイト先への交通が便利
- (5) 周囲の環境が生活全般に便利
- (6) 近くに知り合いや友人がいる
- (7) 近くに保証人がいる
- (8) 同居人の都合
- (9) 紹介されたから
- (10) 保証人が必要なかったから
- (11) 敷金や礼金などの初期費用が安かったから
- (12) ゆっくり探す時間がなかったから
- (13) やっと見つかったところでそこしかなかった
- (14) なんとなく
- (15) その他 ()

20) 今、何人で住んでいますか。

- (1) 一人で (2) 二人で (3) 三人で (4) 四人以上で

21) これまで、そこに住んでいて、どのような問題や困ったことがありましたか。
あてはまるもの全てに○をつけてください。

- (1) 家賃が高いので支払いが大変
- (2) 通学に時間がかかる
- (3) 部屋の設備や住環境に問題がある
- (4) 同居人が多いので自分の時間がなかなか持てない
- (5) 光熱費や電気代などの費用の請求に不審な点がある
- (6) 今は問題ないが、何か問題が起きた時どうすればいいのかわからないので不安
- (7) 特に問題はない
- (8) その他 ()

22) 大東文化大学に学生用の宿舎(寮)があれば、入居したいと思いますか。

【 はい・いいえ 】

「はい」と答えた方におたずねします。あてはまるもの全てに○をつけてください。

どのような学生用の宿舎(寮)があれば、入居したいと思いますか。

- (1) キャンパスに近くて、通学に便利
- (2) アルバイトをする時便利
- (3) 駅の近くで、交通の便や生活全般に便利
- (4) とにかく家賃が安い
- (5) 広さや設備などの住環境が整っている
- (6) 日本人学生や他の国の留学生も一緒に住んでいる
- (7) 特に条件はないので、入居したい
- (8) その他 ()

「いいえ」と答えた方におたずねします。あてはまるもの全てに○をつけてください。

学生用宿舎(寮)に入居したいと思わない理由は何ですか。

- (1) プライバシーが守られない可能性があるから
- (2) 集団で生活するのがいやだから
- (3) アルバイトがしにくいから
- (4) 門限があるから
- (5) 門限以外にもさまざまな規則があるから
- (6) その他 ()

- (4) 保証人の紹介
- (5) 教員の紹介
- (6) 新聞広告、アルバイト求人誌を見て応募した
- (7) 学生課のあっせん
- (8) 店頭の求人広告を見て応募した
- (9) インターネットの広告を見て応募した
- (10) アルバイト先から直接依頼された
- (11) アルバイト先に自分から頼んだ
- (12) その他 ()

25) あなたのアルバイトについての考え方を教えてください。あなたがアルバイトをする(した)理由、あるいはしない(しなかった)理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

アルバイトをしない(しなかった)理由

- (1) 勉強に集中できるから
- (2) 勉強のための時間が増やせるから
- (3) 自分のやりたいことができなくなるから
- (4) 生活が忙しくなるから
- (5) その他 ()

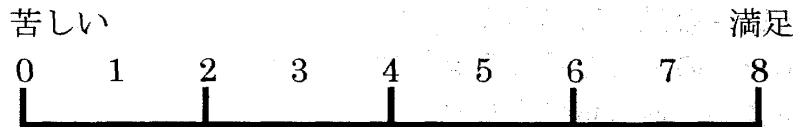
アルバイトをする(した)理由

- (6) アルバイトを通して学べることがあるから
- (7) 日本の社会を経験できるから
- (8) 日本や日本人についてより深く知ることができるから
- (9) 日本語の学習に役に立つから
- (10) アルバイトを通して人間関係(友人や知人)が広がるから
- (11) 将来の仕事に役に立つと思うから
- (12) いろいろな経験ができて留学生活が楽しく豊かになるから
- (13) 日本での生活のためには経済的に必要だから
- (14) その他 ()

26) 経済的に必要がなければ、アルバイトはしません。 【 はい・いいえ 】

VI. 奨学金について

27) あなたは現在の生活について、経済的に満足していますか。それとも苦しいと感じていますか。



28) これまでに奨学金に応募したことがありますか。 【 はい・いいえ 】

29) 応募した奨学金(28)についての有益な情報はどこから得ましたか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- (1) 留学生仲間
- (2) 掲示板
- (3) 国際交流センターのスタッフ
- (4) 教員
- (5) 留学生向けの新聞・ウェブページ・メールニュースなど
- (6) なんとなく知った
- (7) その他 ()

30) これまでに奨学金の給付を受けたことがありますか。 【 はい・いいえ 】

31) 奨学金を受給できなかったために入学後の経済的な計画が大きく変わったことはありますか。 【 はい・いいえ 】

- 32) 奨学金の受給について、どちらがよいと思いますか。また、なぜそう思いますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

高額の奨学金を少人数が受けられる

- (1) 高額の奨学金が受給できれば、生活費の心配をしなくてもいいから
- (2) たとえ機会が増えても、留学生全員が受給できるのではないのだから
- (3) 奨学金は一生懸命に努力した学生に与えられるべきものだから
- (4) その他

()

少額の奨学金を大勢が受けられる

- (5) 留学生は経済的に大変なので、金額が少なくても経済的に生活が助かるから
- (6) 機会が多くなれば、自分が受給できる可能性も高くなるから
- (7) より多くの留学生が受給できるようになるから
- (8) 少額でも受給できると、勉強の励みになるから
- (9) 少額でもあれば、少しでも安心して生活できるから
- (10) その他

()

VII. 日本での留学生活における人間関係について

- 33) 日常生活において困ったことがあった場合、誰に相談しますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- (1) 学内または同じ学科の留学生の友人
- (2) 学内の留学生の知人
- (3) 学内の留学生の先輩
- (4) 学内の日本人学生
- (5) 学内の学部・学科以外の教員
- (6) 国際交流センターのスタッフ
- (7) 就職部のスタッフ
- (8) 学部・学科の教員
- (9) 学部・学科の事務員
- (10) 学外の知人
- (11) 保証人

- (12) 学生相談室のスタッフ
 - (13) 同居している家族や親戚
 - (14) 同居していない日本にいる親戚
 - (15) 母国の家族
 - (16) 誰にも相談しない
 - (17) その他
- ()

34) 日本での生活で重大な問題（病気、金銭のトラブル、犯罪など）が起きたら、誰に相談しますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- (1) 学内または同じ学科の留学生の友人
 - (2) 学内の留学生の知人
 - (3) 学内の留学生の先輩
 - (4) 学内の日本人学生
 - (5) 学内の学部・学科以外の教員
 - (6) 国際交流センターのスタッフ
 - (7) 就職部のスタッフ
 - (8) 学部・学科の教員
 - (9) 学部・学科の事務員
 - (10) 学外の知人
 - (11) 保証人
 - (12) 学生相談室のスタッフ
 - (13) 同居している家族や親戚
 - (14) 同居していない日本にいる親戚
 - (15) 母国の家族
 - (16) 誰にも相談しない
 - (17) その他
- ()

35) 学業（履修、授業の勉強、課題、試験など）について相談したいことがあった時、誰に相談しますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- (1) 学内または同じ学科の留学生の友人
- (2) 学内の留学生の知人
- (3) 学内の留学生の先輩
- (4) 学内の日本人学生

- (5) 学内の学部・学科以外の教員
- (6) 国際交流センターのスタッフ
- (7) 就職部のスタッフ
- (8) 学部・学科の教員
- (9) 学部・学科の事務員
- (10) 学外の知人
- (11) 保証人
- (12) 学生相談室のスタッフ
- (13) 同居している家族や親戚
- (14) 同居していない日本にいる親戚
- (15) 母国の家族
- (16) 誰にも相談しない
- (17) その他

()

36) 日本人学生とよく知り合う機会がもっとあったらいいと思いますか。

全然思わない

大いに思う



37) 日本人学生とよく知り合うために、どんな機会があったらいいと思いますか。
あったらいいと思うもの全てに○をつけてください。

日常生活の中で

- (1) 試験・課題についての簡単な情報を交換する。
- (2) 軽い雑談をする。
- (3) 一緒に食事をしたり、休日を楽しんだりする。
- (4) 勉学について話し合ったり相談したりする。
- (5) 個人的な生活のことを話し合ったり相談したりする。
- (6) お互いの生き方、考え方、将来のことなどを深く話し合う。
- (7) お互いのことばを学び合う。
- (8) ふだんの授業の中でディスカッションや共同作業をする。

行事として

- (9) 大学の行事などにいっしょに参加する。
- (10) サークル活動に参加する。
- (11) 旅行・合宿などをする。
- (12) 日本人学生の家ホームステイする。

- (13) 言語の交換学習会をする。
- (14) パーティ、飲み会などをする。
- (15) 体験・参加型の交流会（例：各国・各地域の料理会、民族衣装試着会など）をする。
- (16) 各国・各地域の事情や歴史などを話して聞かせるなどして紹介する会をする。

Ⅷ. これからの留学生活への期待と大学への要望

38) これからの大東文化大学での留学生活にどんなことを期待していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- (1) 専門の勉強を深めたい
- (2) 専門の勉強だけでなく、その他いろいろな知識を身につけたい
- (3) いい卒論・修論・博論を書きたい
- (4) いい成績をとりたい
- (5) 日本語能力をもっと向上させたい
- (6) 卒業・修了後希望通りの進学・就職ができるように準備したい
- (7) 奨学金を受給したい
- (8) 勉強だけでなく、いろいろな経験や活動をして楽しみたい
- (9) もっと友達を作りたい
- (10) 日本人や日本人学生ともっと交流を深めたい
- (11) 無事卒業したい
- (12) 日本についての理解をもっと深めたい
- (13) 英語も上達したい
- (14) 人間として成長して、立派な社会人になりたい
- (15) その他 ()

39) 今、最も大学に要望したいことは何ですか。

ご協力いただきありがとうございました

なお、回答の内容について詳しくおたずねしたいことがあったときに、ご協力をお願いする場合がありますので、もしよろしければお名前を書いてください。（書いても書かなくてもよいです。）

お名前（ ）

<資料3>

留学生の受け入れ・教育等についてのアンケート

<はじめに>

このアンケートでは、教職員のみなさまに、次のことがらについておたずねします。

- 1 留学生との接触の機会
- 2 留学生に対する配慮やサービス
- 3 今後の留学生受け入れ数
- 4 その他

それぞれについて、できるだけ詳しく、具体的にお教えいただければ幸いです。

お答えいただいた内容は「留学生の日本語教育改革委員会」が今後の調査の参考にさせていただきます。ここでいただいたご意見をもとに、留学生を対象として「大学に対する希望調査」を計画・実施いたします。留学生対象の調査票等ができましたらお手元に届けさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

なお、お答えいただいた内容について、さらに確認させていただきたいことが出てきましたら、改めて別途お願いいたします。その節はどうかよろしく願いいたします。

また、お書きくださいます方について次のことをお教えてください。下にご記入くださいますようお願いいたします。

お名前: _____ 部署名または学科名: _____

内線番号その他連絡先: _____

ご回答は 11月2日(水)まで に

国際交流センター 板橋・東松山 お届けくださいますようお願いいたします。

留学生の日本語教育改革委員会
問い合わせ先: 国際交流センター (板橋: 箕輪、東松山: 笠原)

< 1 留学生との接触の機会 >

① 留学生との接触の機会がありますか。主な例についてできるだけ具体的にお教え下さい。

	イ どのような留学生との接触ですか	ロ どの程度頻繁に接触しますか	ハ どのような内容の接触ですか
例 1			
例 2			
例 3			

紙面が足りない場合は最終ページもお使いください。

< 1 留学生との接触の機会 >

- ② 留学生との接触の機会を教職員側から増やすべきだと思いますか。ア～ウからひとつ選んで○をつけてください。

ア 増やすべきだと思う イ 増やすべきだとは思わない ウ わからない

- ③ 上の②で選ばれたものについて、それを選ばれた理由をお教えてください。

- ④ 上の②で「ア 増やすべきだと思う」とお答えになった方におたずねします。現在は増やすことができない理由は何でしょうか。

< 2 留学生に対する配慮やサービス >

- ⑤ 留学生に対して、留学生であるということで、教職員側からの特別な配慮やサービスが必要だと思えますか。ア～ウからひとつ選んで○をつけてください。

ア 必要だと思う	イ 必要だとは思わない	ウ わからない
----------	-------------	---------

- ③ 上の⑤で「ア 必要だと思う」とお答えになった方におたずねします。どんなことが必要だとお考えですか。

<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>

< 3 今後の留学生受け入れ数 >

- ⑦ 今後本学が大学全体として受け入れるべき留学生数についておたずねします。
ア～ウからひとつ選んで○をつけてください。

ア 増やすべきである

イ 現状でよい

ウ 減らすべきである

(参考：2005年度学生総数及び留学生数(2005年5月1日現在))

学生総数…13,037名(交換留学生、科目等履修生、大学院研究生を含む)

留学生数…604名

学部生……423名

大学院生…103名

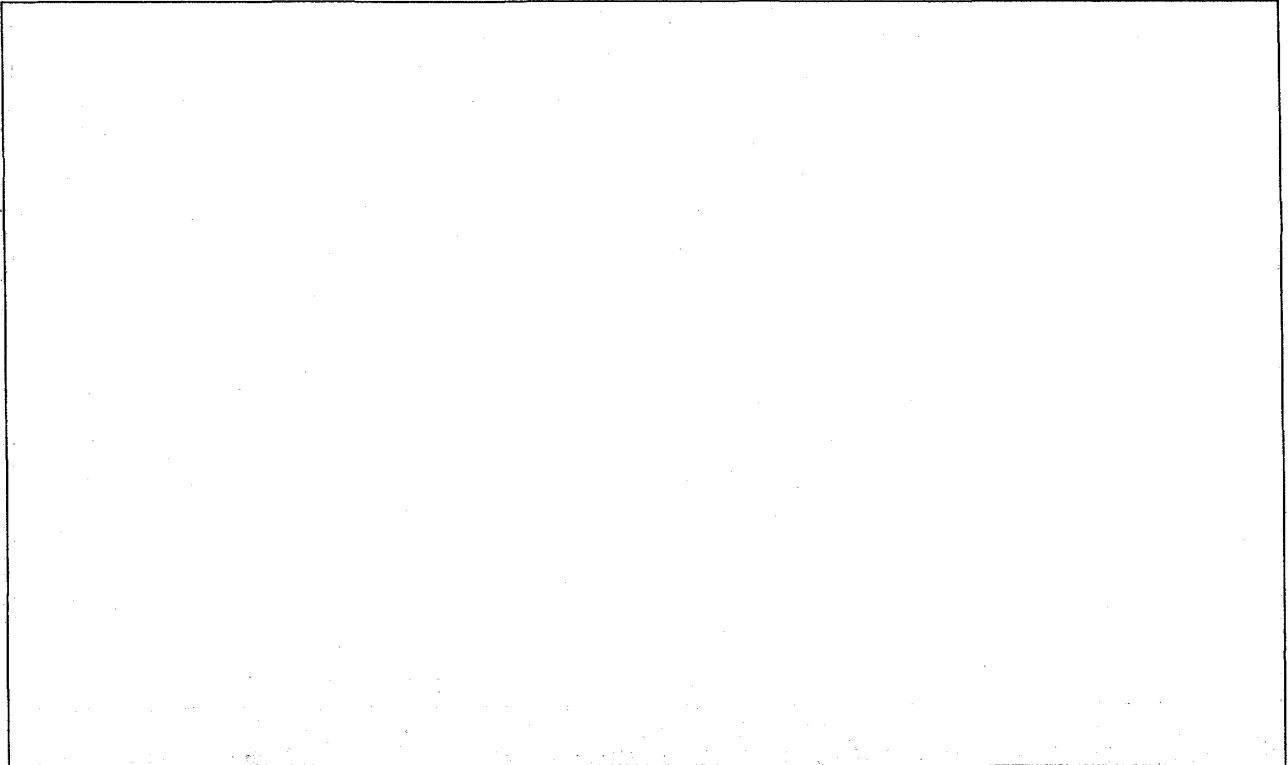
その他(別科生、交換留学生、科目等履修生、大学院研究生)…78名

詳しくは『学園の現況 平成17年度』をご参照ください。

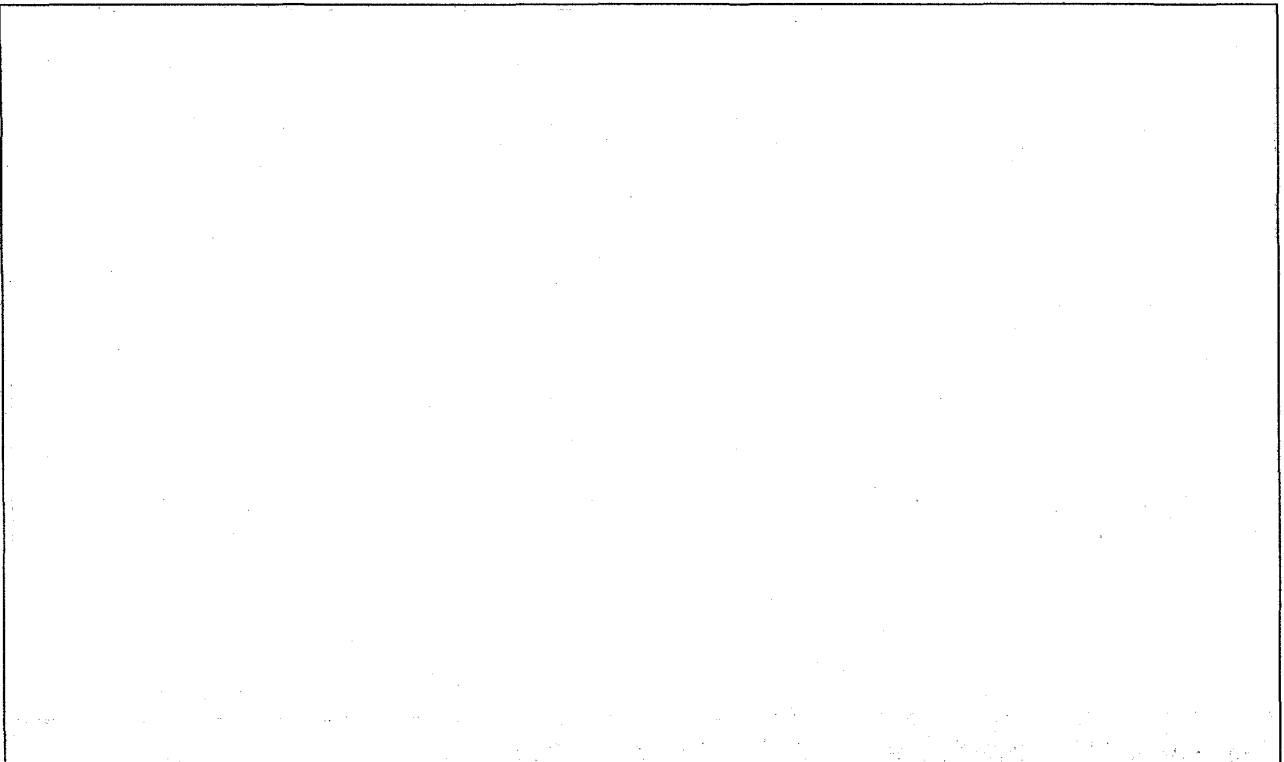
- ⑧ 上の⑦で選ばれたものについて、それを選ばれた理由を具体的にお教えください。

- ⑧ 先の⑦で「ア 増やすべきである ウ 減らすべきである」とお答えになった方におたずねします。

どんな留学生なら増やすべきだとお考えですか。できるだけ具体的にお教えてください。



どんな留学生なら減らすべきだとお考えですか。できるだけ具体的にお教えてください。



< 4 その他 >

- ⑩ 貴学部・貴学科において留学生のために特別な措置を講じていましたら、概要及びその成果についてお教えてください。

- ⑪ 今後、留学生受け入れや留学生教育、留学生対応などの留学生関連のとりくみについて、どのようにすべきだとお考えですか。ご自由に忌憚のないご意見をおきかせください。

紙面が足りない場合は最終ページもお使いください。

ご協力ありがとうございました